

2. プロダクト例 (2)

- ・コース：病院実務実習
- ・ユニット：チーム医療
- ・関連ユニット：病院調剤を実践する、ベッドサイドで学ぶ など
- ・対象：5年実務実習生5名

【学習目標】

G I O :

学生がチーム医療に参加するための基礎能力を習得する。

S B O s :

- 1) 医師・看護師の会話を理解する。(知識・態度)
- 2) 専門用語を判断し説明する。(知識・態度)
- 3) 臨床検査データを見て、処方を医師に提案する。(知識・技能)
- 4) カンファレンスの意義について説明できる。(知識・態度)
- 5) 資料を作成し効果的にプレゼンテーションを行う。(知識・態度)
- 6) 他の職種の人に貢献できるようコミュニケーションする。(態度)
- 7) チーム医療を説明することができる。(知識)

【学習方略】

LS	SBOs	学習方法	場所	人的資源	物的資源	時間	予算(円)
1	7	講義	大学	教員	プリント	1	0
2	4	見学	病棟	薬剤師1名 他の医療スタッフ		1	0
	4	ロールプレー	病棟	薬剤師1名 他の医療スタッフ		1	0
3	2	ロールプレー	大学	教員・薬剤師	脚本	1	4,000
4	2	実践	病院	教員・薬剤師		1	4,000
5	1.3	実践	病院	教員・薬剤師 医師・看護師		1	12,000
6	1.3	ロールプレー	大学	教員・薬剤師 医師・看護師	脚本	1	12,000
7	6	見学・ ロールプレー	セミナー室 ・病棟	薬剤師・医療関係者		1/週	0
8	5	実施	カンファレン スルーム	薬剤師・医療関係者	PC、 配布資料	1	500

3. 薬剤師として求められる基本的な資質（案）

薬剤師として求められる基本的な資質（案）

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

（薬剤師としての心構え）

薬の専門家として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感・責任感及び倫理観を有する。

（患者・生活者本位の視点）

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

（コミュニケーション能力）

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

（チーム医療への参画）

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

（基礎的な科学力）

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

（薬物療法における実践的能力）

薬物療法を総合的に評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

（地域の保健・医療における実践的能力）

地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

（研究能力）

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

（自己研鑽）

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

（教育能力）

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。



資料 6-4

プロダクト(報告書)

各グループのプロダクト（報告書）

【Aグループ】

セッション報告

1. SBOs に使える動詞を考えてみよう。

ワークショップでの目標作成のセッションにおいて、SBOs を作成する際に用いる動詞について検討するためSGDを行った。すなわち、薬剤師職能に見合った動詞（調剤するなど）や時代に即した、たとえばPCの普及により使用するようになった動詞（検索するなど）など実際のSBOに即した動詞を今までの知識、技能、態度の3領域を考えてワークショップの際に配付される学習目標記述のための動詞（例）を見直し、新しく加えるもの、あるいは必要のないものなどについて検討した。

議論の中で、知識領域では「述べる」と「説明する」の違いなどについても話し合った。ワークショップでは知識領域では想起、解釈、問題解決と深さについても考えてもらうことになっているが、深さの度合いによって選択される動詞も変わってくるということを再確認した。また最近ではPCの普及によりインターネットから知識に関わる情報を得ることも多く、また実際の業務でも行っていることから「検索する」といった動詞も加えてはどうかという議論になった。その際にPCを使って上手に検索するという行為は技能ではないかという発言もあったが、知識の領域においても実際に行動を伴うことがあるが、その部分はスキルという言葉で説明し、いわゆる技能の領域とは区別することが重要ということも議論された。すなわち知識の領域では head（頭）、技能の領域では hand（手）、さらに態度の領域は heart（心）を使うというように区別すると分かりやすいという説明を受けた。

プロダクトとしては、態度の領域では新しく「患者の気持ちに寄り添う」、「他職種と協調する」、「患者の想いを受け入れる」のようなSBOを作成した。さらに「傾聴する」「共有する」「共感する」「寛容する」といった動詞を加えることを提案した。また技能の領域では、薬剤師の職種特有の動詞を増やしてはどうかという議論になり「水剤を適切に計量する」といったSBOを作成した。「混合する」「混和する」といった調剤業務で使用する特殊な動詞も動詞表に新しく載せてはどうかということを提案した。さらに知識の領域では「(ARBの)副作用情報を正しく検索する」というようにDI業務などでPCを使っての業務が日常となっていることからそのようなSBOを作成した。「発見する」「指摘する」などの動詞も提案した。

次に知識の領域では深さについても議論することになっているが、技能の領域でも深さは存在し、使用する動詞でも「始める」や「模倣する」などの動詞は比較的浅い部分であるのに対し、「熟練する」や「工夫する」などの動詞は深い部分にあたることなどが議論され知識以外でも深さを意識して動詞を選択しSBOをたてる上で重要であることを学んだ。

またとくに態度の領域では動詞単体ではなかなか理解できないという議論があり、「協調する」「推奨する」「寄り添う」「傾聴する」「共感する」「共有する」という動詞には修飾する形容詞や副詞が必要で文章全体として態度を表すのではないかという意見がでた。

また「～できる」という動詞について、知識や技能の領域では使用可能であるが、態度の領域では、たとえば「挨拶することができる」というような文章だとわかっているにもかかわらず、実際はしないというように解釈することができるので「挨拶する」というような使い方が適切であり、この領域では使用できないことなどを学んだ。

2. 学習目標の動詞を変えると何が変わる？

コース「薬局実務実習」、ユニット「セルフメディケーション」の過去のプロダクト例のSBOsから知識領域のものと技能領域のSBOをそれぞれ1つずつ選び、その文章の表現方法、とくに動詞をかえることを意識して、より具体的なSBOに変更する作業を行った。さらには方略、評価についても検討した。

知識領域から選んだSBOは「OTC、漢方、サプリメント、健康食品について一般基礎知識を習得する。(知識)」を①「OTC、漢方、サプリメント、健康食品に関する質問に対して適切に答えることができる。(知識・解釈)」と②「代表的なOTC、漢方、サプリメント、健康食品を分類する。(知識・想起)」の2つの文章に分け、さらに深さについて想起レベルと解釈レベルに分けた。変更前よりは学習者がより具体的で理解しやすいSBOになったと思う。①は自習でOTC、漢方、サプリメント及び健康食品を分類してレポートで評価し、その後②に関してはケーススタディで質問事項と答えについてロールプレイを行い実習するという方略をたてた。

技能領域から選んだSBOは「症状から病気を予測し、必要なら受診勧告ができる。(技能)」を「受診勧告のために必要な紹介状を作成する。(技能)」というように変更した。こちらも学習者は具体的で理解しやすい方法であることがわかる。病院間の紹介状のように、薬局から病院への紹介状という今後の薬剤師業務に展開されるようなSBOということで学習者もモチベーションがあがると考える。これについてもケーススタディで学び、ロールプレイで紹介状の記入のしかたなどを行い、実習へと発展させていくという方略を作成した。今回選んだ知識と技能のSBOも動詞を変えて、より具体的で理解しやすいSBOとなることがわかり、学習目標のもつべき性格としてのRUMBAを意識することができることを学んだ。

今までのワークショップでは、作成したSBOの領域で(知識・技能)といった2つの領域を含む表現があった。今回のアドバンスドワークショップでは、技能はあくまでもhand(手)を使って行う計量、計数調剤のような技術であることを学び、知識のスキルと技能とは区別することができることを理解できた。さらには知識領域の中でのスキルの違いによってその深さもかわることなども学ぶことができた。大変有意義なワークショップであった。今後のワークショップに活かしていきたい。

【Bグループ】

セッション報告

認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (WS) では、「薬学教育の改善を推進するために、WS 参加者が教育への関心を深め、望ましいカリキュラム立案能力を修得する」という GIO が掲げられている。GIO に対する WS 参加者の学習到達度・習熟度は、参加者の個性・意欲・背景にも左右されるが、それ以上に、サポート役であるタスクフォースの個性・特性・習熟度に大きく影響される。そこで、本アドバンストワークショップ (AWS) では、WS 参加者に対する学習効果を高めるために、(1) タスクフォースの個性・特性・習熟度に非依存的な方策を模索するとともに、(2) 個々のタスクフォースのスキルアップを主眼として開催された。

1st セッション：(1) タスクフォースの個性・特性・習熟度に非依存的な方策の模索

WS において、カリキュラムプランニングのスタートに当たる「学習目標」のセッションでは、参加者は聞きなれない教育用語・略語に戸惑い、GIO や SBOs の立案に苦慮する。中でも、学習目標記述のための「動詞」の使い方がプロダクトを大きく左右することが AWS のタスクフォースより指摘された。そこで、各グループにおいて、学習目標記述のための「動詞」を見直すことが提案された。

B グループではまず、「動詞」を見直すことの必要性がまず議論にあがった。初見でカリキュラムプランニングを試みる WS 参加者は、やはり配布資料の「動詞」を見ながら GIO や SBOs を立案することが多い。そこで、立案のヒントになるような（実務現場をイメージできるような）「動詞」を増やした方がいいのではないかという意見があがった。その一方では、「動詞」はあくまでも作法であり、配布資料の動詞にとらわれない議論を促すことが重要であり、「動詞」に関しては適切にタスクフォースが導けば良いのではないかという意見もあがった。さらに、「動詞」にとらわれ参加者の議論を押し込まないように、配布資料の「動詞」はむしろ減らして「動詞」を自由に使ってもらっても良いのではないかという意見もあがった。また、例示を示したり、あいまいな動詞を修飾語で区別するなど、タスクフォースの習熟度に依存しないような配布資料を作るアイデアが議論された。その結果、B グループからは以下の様に提案した。

- ① 実務現場をイメージできるような SBOs を立案するために「動詞」を加える。
 - 例 1) 患者の訴えに傾聴する (態度)
 - 例 2) 向精神薬を適切に管理する (技能)
 - 例 3) 院内製剤を指針に従って調整する (技能)
 - 例 4) バンコマイシンを腎機能に配慮して投与設計する (技能)
 - 例 5) プルーレターについて概説する (知識)
- ② SBOs を分かりやすくするために、あいまいな「動詞」には、修飾語を付け加えたり、より適切な動詞に置き換える。
 - 例) 「ロキソニンの使い方を説明できる」
説明するは、認知領域を表す動詞である。しかし、ロキソニンの使い方をだれに説明するのか?どのように説明するのか?によって到達目標のニュアンスは、知識・技能・態度いずれの領域の SBO にもなりうる。このニュアンスのあいまいさが学生に誤解を与えると考えられる。そこで、次のように例示する。

認知領域の SBO にする場合	・「ロキソニンの <u>服薬指導項目を説明できる</u> 」
精神運動領域の SBO にする場合	・「ロキソニンの <u>使い方を患者に指導できる</u> 」
情意領域の SBO にする場合	・「ロキソニンの <u>使い方を患者の体調に配慮して説明する</u> 」
- ③ 参加者が「動詞」一覧にとらわれすぎないように、「動詞」を減らす。

*この案は、参加者を育むタスクフォースのアドバイスが大変重要になる（タスクフォースの習熟度に依存してしまう）ことも推測され、議論を重ねたが、残念ながら具体的な対応策を練ることができないままタイムアップとなってしまった。

プレナリーセッションでは、他のグループから、様々な "動詞"、中でも精神運動領域の "動詞" が多く提案され、AWS 参加者の WS に対する熱意が感じられた。また、午後のセッションでは、中島先生から、動詞は教育者の思いを学習者に的確に伝える重要な要素であることが説明され、AWS 参加者それぞれが改めてその重要性を考える事となった。

2nd セッション：(2) 個々のタスクフォースのスキルアップ

WS 参加者に対する学習効果を高め、より良いプロダクトを生み出すためには、サポート役であるタスクフォースの影響力が大きいことは言うまでもない。そこで、個々のタスクフォースのスキルアップを目的とし、プロダクト例の SBOs の修正、および修正対象となる SBO の学習方略・評価案作成作業を行った。

B グループは、ユニット「チーム医療」のプロダクト例の修正作業を行った。SBO の修正では、学生が理解しやすい具体的かつ明瞭な表現を意識し、先のセッションで取り上げられた "動詞" に留意しながら立案した。方略案作成では、個々の SBO をより効果的に習得してもらうために、1 つの SBO に対し複数の LS を掲げた。評価案作成では、知識に基づく態度を習得してもらうために、様々な場面で多くの評価者からアドバイスをもらい、形成的な評価で学習者(学生)の成長を促すことを提案した。B グループの修正案を以下に示す。

【SBO 案】

対象 SBO 3) 臨床検査データを見て、処方を医師に提案する(知識・技能)

修正案 SBO 3-1) 患者情報に基づいて、患者の病状にあった処方設計・変更を立案する(知・問題解決)

SBO 3-2) 立案した処方を薬学的根拠に基づいて医師に納得できるように提案する(態度・反応)

【方略案】

LS	SBOs	学習方法	場所	人的資源	物的資源	時間	予算
5	3-1	自習(自己学習)	病院		プリント・カルテ・本	1 時間	0
6	3-1	SGD	病院	薬剤師	プリント・カルテ・本	1 時間	0
7	3-2	見学	病院	カンファレンスメンバー	資料	1 時間 x 2 回	0
8	3-2	ロールプレイ	病院	薬剤師	資料	1 時間	0
9	3-1, 3-2	実践	病院	カンファレンスメンバー	資料	1 時間	0

【評価案】

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
3-1	形成的	問題解決	薬剤師	LS6 終了時	レポート(個人)
3-1	形成的	問題解決	薬剤師	LS6 終了時	レポート(グループ)
3-2	形成的	態度	学生(自己を含む)・薬剤師	LS8 中	観察
3-1, 3-2	形成的	問題解決・態度	カンファレンスメンバー	LS9 中	観察
3-1, 3-2	形成的	問題解決・態度	学生	LS9 終了後	レポート

プレナリーセッション (PS) では、各グループのプロダクト修正案が紹介された。いずれのグループからも、1st セッションを意識し、学習者 (学生) に分かりやすい "動詞" を用いた SBOs が示された。また、学習者 (学生) の成長を促すような方略案と評価案も紹介された。修正案を作成するプロセス (SGD) および PS での討議を通じ、AWS 参加者はそれぞれタスクフォースに必要なスキルを養うことができたのではないかと感じた。さらに、「教育者の思いを伝えるための "動詞" やニュアンスという味付けの "形容詞" や "副詞" の重要性」、また、「参加者を育てるタスクフォースの役割」など、中島先生からタスクフォースに必要な能力と資質に関する講演を拝聴し、AWS 参加者各自が AWS 当日あるいはこれまでの WS でのタスクフォースとしての取り組みを振り返る機会に恵まれた。

当該 AWS で行なわれたプロダクト修正作業は、タスクフォースのスキルアップにはとても良い効果をもたらす。それゆえ、WS 参加者の学習効果がタスクフォースの個性・特性・習熟度に大きく依存するのであれば、尚更今回のような AWS において、タスクフォースに必要な能力や資質を養う機会が必要ではないかと考えられた。また今回、B グループの SGD では、AWS での作業目的や WS でのタスクフォースのあり方にまで議論を深めることができたため、WS 参加者はもちろんのこと、カリキュラムに従って学習する学生を見据え、様々な角度から討議することができた。その過程で、WS では、各セッションでの作業意図・目的を SGD のメンバーが十分に共有し、その上で学習者 (学生) のためのカリキュラムを立案することが極めて重要であると改めて感じた。

薬学教育におけるタスクフォースの役割は、実務実習指導薬剤師養成のサポートである。教育への関心を深めた WS 参加者は、それぞれが活躍する医療現場 (薬局・病院など) において、望ましいカリキュラムをもとに学習者 (学生) の行動に価値ある変化をもたらすことが期待できる。そのような WS 参加者を育むためにも、タスクフォースの資質や能力の更なる向上が必要不可欠である。

【Cグループ】

セッション報告

作業1 「動詞表（例）を見直してみよう」

WSで例示される動詞表が、薬剤師の実務に即した部分が少ないことから、プロダクトの質が良くないという指摘がある。実際、受講者は初見で作業をするため、見本やTFに頼りがちである。21世紀という時代背景を意識し、卒業時の学生に求められる薬剤師としての基本的な資質を意識し、薬学教育のふさわしい動詞の例を提供することで、プロダクト（報告書を含む）が改善し、TFの個性・特性・習熟度に寄らず、全国共通した方向性が示せるのではないかとすることで、学習目標記述のための動詞表（例）の見直しを行った。

追加すべき動詞

G I O

実践する 連携する 協働する 参画する

S B O s

（知）提案する 読み取る 処方設計する モニタリングする

（技）混合する 調剤する 計量する 傾聴する 把握する 作成する

鑑査する 監査する 鑑別する 監別する 服薬指導する

聴診する 視診する 触診する

（態）守る 啓発する 協調する よりそう 共感する

削除したほうが良いと思われる動詞

参加する

S B O s 例

- ① 複数の軟膏を均一に混合する（技）
- ② 処方箋を監査する（知）
- ③ 調剤薬を鑑査する（技）
- ④ 患者の病態に応じて処方設計する（知）
- ⑤ 副作用・相互作用をモニタリングする（知）
- ⑥ 脈拍を触診する（技）
- ⑦ 褥瘡の病期を視診する（技）
- ⑧ 持参薬やお薬手帳から代替薬を提案する（態）
- ⑨ 後発医薬品の使用意義について啓発する（態）
- ⑩ 患者の理解状況に応じた薬剤情報提供文書を作成する（知）
- ⑪ 患者と家族の気持ちに寄り添う（態）

作業2

例示されたプロダクト例のS B O sについて、知識と態度または技能のS B O sを一つ選択し、表現と、動詞を変えることで、領域や、どこまで学生が学ぶかを、深さも考えて変更する。そのS B O sに対する方略と評価法について検討した。

コース 病院実務実習

ユニット チーム医療

関連ユニット 病院調剤を実践する、ベッドサイドで学ぶなど

対象 5年実務実習生5名

検討S B O s 1) 医師・看護師の会話を理解する（知・態）

変更 →→ 1) チームスタッフ間の会話から薬学的問題点を見つける (知・解釈)

方略

方法	場所	人的資源	物的資源	時間	予算
実践	病棟	病棟スタッフ・薬剤師	カルテ 看護記録	1日4h以上× 2w×2病棟	0

評価 口頭試験

チーム医療について検討していく中で、チーム医療の中で薬剤師が他職種から、どのような役割を必要とされているのか (ニーズ) を、学生自らが把握 (キャッチ) し、常に疑問点をもって行動できるようなSBOsがないことが問題ではないかということで、態度領域の新たなSBOsを作成した。

SBOs 2) チームスタッフ間の会話から薬学的問題点を見つける姿勢を示す (態)

方略 上と同じ

評価 観察記録

合同討議の場において、学生がどのように行動すべきかがわかりにくいという指摘があった。受け身ではなく、学生自らが行動してほしいという指導者のニーズを強く反映させたものであるため、SBOsよりはユニット、もしくはコースのGIOに含ませていけば、それぞれのSBOsも違ったものになるのではないかと考えられた。

【Dグループ】

セッション報告

午前 セッション「目標」

目標をたてるにあたり、動詞が変わることによって学習者の目指すべき方向は変わる。それにより、方略、評価も変わってくるのはみな経験済みではあるが、いざ「新たな動詞を考えてください」と言われると戸惑いがあった。

プレゼンターからの説明をうけ、3年間の実務実習の経験を踏まえて今まで使われていない動詞をまずは思いつくままに挙げてみようということで始めた。医科での例がより具体的であったのを参考に議論した結果、下記を模造紙に残し発表することとした。

傾聴する 共感する 報告する 質問する 情報を引き出す 問いかけをする
伝える 教える 与える 共有する 作り上げる 連携する 分析する
提案する 量る アセスメントする トリアージする バイタルサインをとる
脈をとる 血圧を測る 心音を聴く

次に追加した動詞を用いてSBOsを列記するとの課題では、21世紀の新しい薬剤師像を意識すると共に、Dグループとしてはカタカナ言葉にこだわり作成することとした。

例えば「アセスメントする」は評価すると考えることが多いが、日本語と英語では微妙にニュアンスが違う。また「トリアージする」は最近良く耳にする言葉であり大切な要素である。議論の結果、英語のほうが学習者に伝わり易いこともあるとの結論に達し今回はこの2つをまず取り上げることにした。

また、態度の領域を学ぶことはとても大切な要素である事から 「共感する」と「連携する」を用いてSBOsを作成することとした。

以下を作成例として示す。

- * 来局者の症状に応じて薬学的診断に基づき（医薬品使用の可否、受診勧奨等）トリアージする（技能）
- * 得られたバイタルサインに基づいてアセスメントする（知識）
- * 患者さんの言葉に対して共感する（態度）
- * 在宅療養の必要な患者さんのケアについて多職種と連携する（態度）

総合討論

予め動詞が明確に示されていることの是非について様々な議論があった。

午後 作業パート2

コース 薬局実務実習

ユニット セルフメディケーション

関連ユニット 薬局調剤を实践する他

対象 5年実務実習生2名

上記条件の下で示された6つのSBOsから当グループではまず

{3} OTC、漢方、サプリメント、健康食品、について一般基礎知識を習得する。}（知識）を選択した。以下に議論した内容を示す。

1. 動詞の幅が広すぎる、この程度は大学で学んでくること、アイテムを医薬品とその他に分けて考えてはどうか。
 2. 必要な情報を提供するという観点と受診勧奨を含む適切なトリアージを提案するという観点の2つの視点から見直す。
 3. より実務実習を意識した実践的な内容に変更することを意識する。
2. に関しては時間の余裕がなくなり最初の観点のみとなった結果、下記に変更することとした。

変更後SBOs :

{来局者から相談を受けたOTC、漢方、サプリメント、健康食品について服用時に注意すべき情報(効果、副作用、相互作用)を提供できる。}(知識・問題解決)

方略と評価

学習方法	評価方法
SGD (60分×1)	観察記録
ロールプレイ (20分×3)	観察記録
実践 (20分×20)	口頭試験

次に 5) 何でも相談してもらええる雰囲気作りができる。(態度)

を選択し、何をすれば良いか具体的に示す、選ばれる薬剤師になるにはどうすれば良いか等の議論をした結果下記に変更することとした。

変更後SBOs :

来局者の訴えに対して共感する。(態度)

方略と評価

学習方法	評価方法	評価者
ロールプレイ (10分×5)	観察記録	
実践 (10分×20)	観察記録	指導薬剤師、来局者

まとめ

午前 :

指導薬剤師養成ワークショップにおいて「目標をたてる」ということはとても大切なことであり、しっかりとその手法を理解しておく必要がある。

タスクフォースとしてSGDを見ていると、動詞の使い方迷うことが多い。そのため総合討論でこの動詞を予め示しておくことの是非について意見交換できたことは大変有意義であった。参加者に自由に議論してもらうことが最も大切であるが、限られた時間内でプロダクトを仕上げるということを考慮すると、予め提示しておくことに分があるように思う。

午後 :

プロダクトをブラッシュアップすることもタスクフォースとしては常に取り組むべきことである。今回もそうであったが、同じテーマでプロダクトを比較してみるとそれぞれのグループの特徴が出ておりとても参考になる。

このことからワークショップの開催には最低2Pが必要なように思う。

久しぶりに参加者として自由に議論できたことはとても楽しく有意義だった。こうした経験をもっと多くのメンバーが体験することが大切である。東京都においてもより良い実務実習を目指してこうしたワークショップの開催に取り組み、その趣旨を伝えていかなければならないと感じる。

【Eグループ】

セッション報告

《Part 1》 SBOsに使える動詞を考えてみよう

●Eグループでは、自己紹介のあと思いつく動詞をどんどん出すという手法で思いを出し切った。行動目標 SBOsのみならず一般目標 (GIO) に入るものもあげられ、最後に振り分けを行った。

●習得と修得、漢字の使い方についての話があった。修得が使われているが、学生のレベルでは習得がよいのではないかという意見があった。

●医学教育には「手術する」や「視診する」などが入っているので、薬学教育には「調剤する」などが必要ではないかという意見があった。

●現行のものは、チーム医療や在宅医療、コミュニケーションに関する動詞が少なく、そのような動詞を追加する必要がある。

●深さに応じていろいろな動詞があった方がわかりやすいのではないか。たとえば、理解する⇒知る、など

●実際に出た動詞を羅列する

GIO 修得する (習得する) 調剤する 貢献する 分析する 知る (理解する)

考察する 行動する 起す 実践する 提案する 教える 指導する 提案する

SBO 【チーム医療を考えて】立場に立つ (態) 介入する (チーム医療) 対話する (技)

挨拶する (態) 傾聴する (態) 聞き取る (技・態) アセスメントする (技・知、解釈)

解決する (知) 伝える (技) 尊重する (態) 止める (態) 共有する (態) 計画する (技)

参画する (態)

【調剤過誤事例などをイメージ】分析する (知、解釈) 【在宅、病院】 (知、解釈) 無菌処理する (技) 【医薬品の】 (技) 供給する 【IT 情報】 検索する、見極める (知・解釈) 【学校薬剤師】 啓発する (態) (技) 【在宅医療】 仕分けする (技)

【その他】確認する (態) 調査する (技) 遵守する (態) 収集する (技) 鑑査する (技) 調整する (技) 調製する (技) 最優先する (技) 順位づけする (技)

●例文

- ・生徒、児童に対して薬の正しい使用方法を啓発する (態度)
- ・チーム医療での多職種の立場を尊重する (態度)
- ・インターネット等の情報の信頼性を見極める (知・解)
- ・患者において残薬を適切に仕分けする (技)
- ・在宅訪問における薬学的管理指導を計画する (技)
- ・調剤過誤の原因を分析する (知・解釈)
- ・処方設計に参画する (態・技)

●実際の現場で使われている動詞が多く出て有意義な討議ができたと思う。

《Part 2》 ユニット名「セルフメディケーション」

『3) OTC,漢方薬、サプリメント、健康食品について一般基礎知識を習得する。(知識)』
について分析、変更し学習方法と評価を作成する。

●討議内容

- ・セルフメディケーションを理解するだけではなく、薬局薬剤師の役割として態度まで行う必要があるのではないか。
- ・販売ではなく、地域住民に選択しを提示して自己決定をサポートすることが必要。

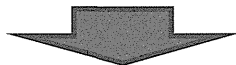
- ・サポートするために地域住民から聞き取ることが大変重要。
- ・しかし受診勧奨ということは、自己決定を覆させることであり、もう一步踏み込む必要がある。
- ・来局した地域住民に提示する選択肢としては、受診勧奨、OTC等の提案、生活習慣のアドバイスと大きくわけて3つになる。

以上の討議をふまえEグループでは、SBO3)について変更することとした。

4)については3)の中で提案する選択肢の一つであると思われるので削除した。

●変更

- 3) OTC、漢方、サプリメント、健康食品について一般基礎知識を習得する(知識)
- 4) 症状から病気を予測し、必要なら受診勧奨ができる(技)



- 3-1) OTC、漢方、サプリメント、健康食品の役割、使用目的を説明できる(知・解)
- 3-2) 来局者の訴えや来局目的を聞き取る(態)
- 3-3) 来局者の訴えや来局目的に応じた対処法の選択肢を提案する(態)
- 3-4) OTC、漢方、サプリメント、健康食品が必要な方に対して、適切な商品を提供する(技)

●学習方法と評価

3-1)	講義	90分	口頭試験	
2) 3) 4)	見学	15分		
	ロールプレイ	30分×3	}	観察記録
	実習	30分×10		

資料 6-5

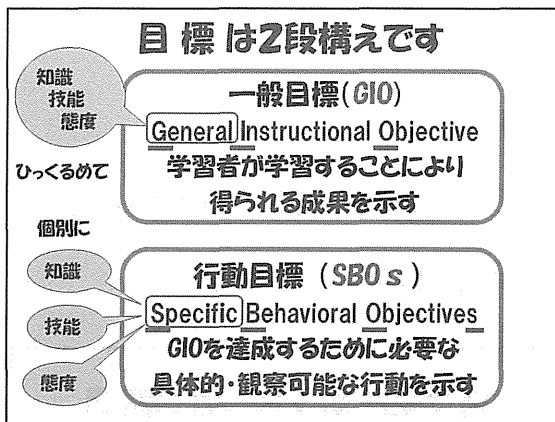
講演

特別講演

「ワークショップの隠し味-タスクフォースのスキルアップのために」

中島宏昭先生 (昭和大学医学部)

<p style="text-align: center;">ワークショップの隠し味 タスクフォースのスキルアップのために</p> <p style="text-align: center;">全国薬学教育者アドバンスワークショップ(平成24年度) 2012.12.23 中島 宏昭</p>	<p style="text-align: center;">時々受ける、いくつかの疑問</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標の形式 2. 必要と要求 3. 「技術」と「技能」 4. コースとユニットの関係 5. 「技能」・「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか? 6. 「評価の特異性」とは? 7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないか?
<p style="text-align: center;">時々受ける、いくつかの疑問</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標の形式 2. 必要と要求 3. 「技術」と「技能」 4. コースとユニットの関係 5. 「技能」・「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか? 6. 「評価の特異性」とは? 7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないか? 	<p style="text-align: center;">目標の作り方</p>
<p style="text-align: center;">目標の作り方 (医学系では)</p>	<p style="text-align: center;">目標の作り方</p>



GIOは学生に伝えたいことを 文章にしたもの

考えを文章にすることは大変な作業です。
だからGIOを作るのは大変なのです。


思いをきちんと伝えるためには、明確な動詞を使うことが必要です。

形容詞と副詞で味付けをしてニュアンスを伝えます。

学習者が口ずさみたくなる目標

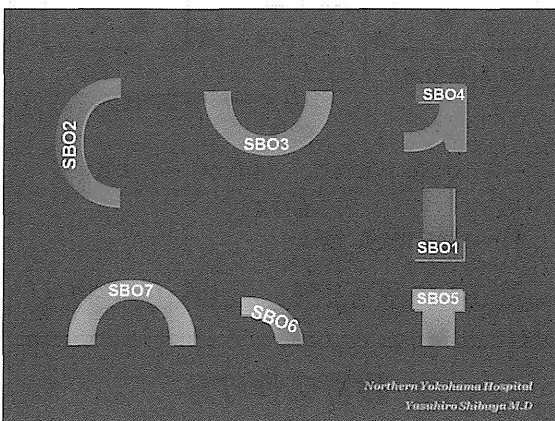
- 自分の経験から生まれた目標を文章にすることで情報となり、他の人に伝わる
- 文章化するのは大変
- 目標を口ずさんでいるときは、やる気になっているとき
- 口ずさみたくなるような目標

研修目標の発表は



中間発表
できたところまで発表
発表後は提案・指摘を聞くのみ

本発表
発表後は討論



時々受ける、いくつかの疑問

1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」、「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないのか？

技術と技能

技術 かんなで木を平らに削る技術・・・ 一般的なもの

- ① 物事を巧みにしとげる技。技芸
- ② 自然に人為を加えて人間の生活に役立てるようにする手段。そのために開発された科学を実際に応用する手段。

技能 その技術を繰り返して身につけたもの・・・ 個人のもの

物事を行う腕前。技量 大辞林(三省堂)

時々受ける、いくつかの疑問

1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」、「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないのか？

コースとユニットとの関係

大学のGIO (理念)			
各コースのGIO			
ユニット1 GIO, SBOs 方略 評価	ユニット2 GIO, SBOs 方略 評価	ユニット3 GIO, SBOs 方略 評価	(ユニット 4) GIO, SBOs 方略 評価

コースのGIOを達成できたかどうかで総合的評価をする

時々受ける、いくつかの疑問

1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないか？

技能・態度の評価を客観的にするために

1. 道具(ツール)を使用する

- ・ チェックリスト
- ・ 評定尺度

2. 評価者を複数にする

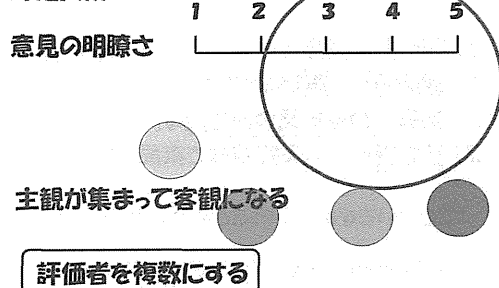
チェック・リスト

	YES	NO
1. 自己紹介したか	_____	_____
2. 患者の名前を患者に尋ねて確認したか	_____	_____

評定尺度

	良くない	普通	最良		
	1	2	3	4	5
1. 意見の明瞭さ	_____	_____	_____	_____	_____
2. 感情的言動の抑制	_____	_____	_____	_____	_____

評定尺度



まず個人がつけて複数で

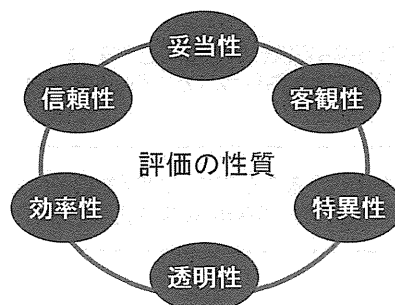
[身だしなみ]

個別評価	YES	NO				
1. 髪型は適切	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
2. 髪の色は問題ない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
3. 爪の長さは適切	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
4. 白衣を着こなしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
総合評価	1	2	3	4	5	6
	大いに問題あり			大変良い		

時々受ける、いくつかの疑問

1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないか？

良い評価法を選択するための条件



SB0 ① : 挨拶する

ところが、挨拶しない。

知識・技能・態度の何が足りないのか、このSB0では分からない

SB0s

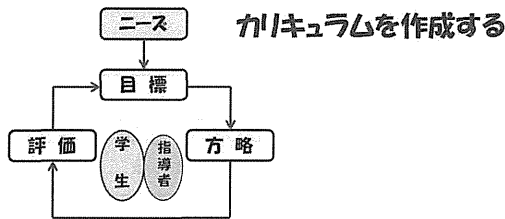
- ・ 挨拶の大切さを説明できる (知識・解釈)
- ・ 時と場と相手に応じて適切に挨拶できる (技能)
- ・ いつも気持ち良く挨拶する (態度)

適切な評価をするために、特異性をもったSB0sを作る

時々受ける、いくつかの疑問

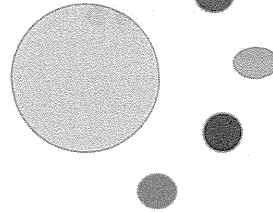
1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないか？

学生ひとりひとりの状況・レベルに応じて



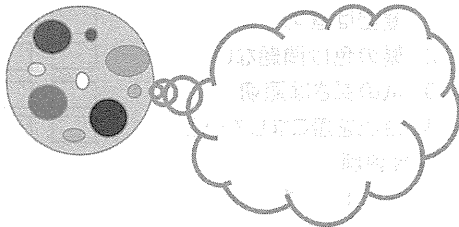
Teaching

教え込む



Learning (自分で学ぶ)

引き出す



例えばSB0sの表現で

1. 朝は必ず挨拶をする。
2. 朝は明るい声で挨拶をする。
3. 来局者の目を見つめて話す。
4. 目で受け入れる気持ちで来局者を見る。

「ここいいですね」ということを短く、さうつと言う。

「～でなければなりません」とは言わない。

育てる

こうなって欲しいと思うことを、本人の行動の中から見つけてさうつ指摘する

引き出されることで本人が新たにそのことを意識し、本人なりの人格を創りだして行く

資料 6-6

話題提供